

# ブログ開設の弁

森 一久

## 世界金融危機・同時不況の次に来るもの

我々のテーマ——環境・エネルギー・ハイテク・安全保障、そして日本という国のあり方——を論じ始めるには、今日という時点はあまりにも不適切のように見える。「百年に一度」といわれる金融の恐慌的状況・世界同時不況の真っ只中。政治も経営も思考の物差しを見失い、前言を翻すに恥ずることも無く、評判のよい場当たりの施策が次々と打ち出されている。そうなればこそ黙っておれぬと、ここに当ブログの開設を急いだ次第である。

事ほど左様に、事態は確かに文字通り不透明で、百年に一度どころか世界・人類にとって初体験のものかもしれない。しかし、経営者の多くは身をすくめ事業縮小と人員削減しか手が打てず、後は政府にお願い、為政者は、色々と常套的な「膏藥」をふんだんに張り続けている。そうしていれば、何年（3年？）か先には、世界の経済システム（とそれを支える秩序や価値観も）、（使い古しの膏藥の山は残るものの）「元通り」の態様に立ち戻るものと、信じ切っている様に見える。

そうならば幸いであるが、やはり世界は、元通りにではなく、全く違った姿で再出発するに違いないと思う。思い出してほしい、「成長の限界」という言葉が流行してから久しいというのに、経済社会は旧態依然で、「競争」という動機に基づく人知（技術革新）の努力によって、「成長」が続くものと信じ切って、今日に至った。そして「パイを大きくして問題解決」という大合唱が、世界・国家の基本概念であり続けている。その結果一時的には、BRICSの経済発展が、世界経済を引っ張ったり、日本などの先進国も潤ってきたりした。

しかし、例えばアフリカの悲惨と貧困も、各国内の「格差」も、改善するどころか、むしろ悪化している。こんな状況は、果たして単に「分配」の問題なのであろうか。

ここ十年の間で唯一希望の持てそうな動きは、地球温暖化への国際的取組みであったが、ここでも、主要な「手法」はまたも、技術革新と経済的インセンティブ（端的に言えば「損得」）であり、その具体化を協議する、十四回にも及ぶCOPの有様も、各国間の利益対立で先行き不透明の状況が続いていた。果たして、この同時不況で、「それどころじゃない」と後回しの兆しが出ている。しかしここでも、今の世界経済の大混乱は直ぐもとの秩序に戻るといふ、この国の総理モドキの「甘え」が垣間見える。

---

## 何が足りないのか、何が求められているのか（要約）

今回の事態は、資本主義の自壊であるといえよう。わずか十数年前、ソ連が崩壊したとき、「資本主義の勝利」などと浮かれ、自由世界はその本当の原因を考えようとしなかった。それが今や皮肉なことに、各国政府の対策は正に社会主義そのものであり、今日本では「蟹工船」が売れ、共産党は人気上昇で、恵比須顔である。

考えてみれば、二つの「大崩壊」の真因は、人間の個人または集団としての「器量」というか、知的能力範囲の狭さというか、「徳性」の低さといったものが、基本的に不足し続けた。ということに尽きる。とすれば、なんらかのものの考え方の「脱皮」は必須で、それこそ、

人間の進歩になると、筆者は固唾を呑み、且つ期待している。

つまりわれわれは柄にも無く、「システムを大きくし過ぎた」、「大きいシステムを持ち込み過ぎた」。(ITを不用意に持ち込んだため、質的・量的に多種多量なものを抱えこんだシステム)……。人間のドロドロとした諸欲を抜きにした「・・主義」というものを信奉することが如何に危険な事か、ボツボツ気付いてもいいのではないか。

---

### 各論も看過できず

ここ半世紀の間人知が手に入れた技術の中には、ITに加え、生物学、宇宙科学、原子力など、質・量あるいは前後・左右・上下に、影響する、馬鹿でかい「システム」がある。その扱いを誤ると、エライことになる。

そのうち原子力は、悲惨な悪用(原爆)から始まっただけに、とくに日本では平和利用の「着手の是非」をめぐる国民的激論の末、原子力基本法・原子力委員会の創設などの「禊」の末、五十七年前着手した。その後最初の十年は全国民・全政党の支持のもと、またその次の二、三十年は、TMIにチェルノブイリ事故があったりしたが、何度かの石油危機が帳けしにしてくれるといった幸運もあって、日本の電力の三分の一を供給するという場面もあった。しかし今日、かつての「禊」はどこかに置き忘れ、原子力関係者に対する社会評価は惨憺たるものである。「いくら努力しても原子力発電のおかげで温暖化ガスが増加した」などという「濡れ衣」みたいな話にも、関係者は口を閉ざしたまま・・。

この辺の問題の深層については、UCN会のメンバーには詳しい人もいるので、本ブログの続編に厳しい指摘や提言が登場する事を、当編集人としても強く期待している次第である。

[このページを印刷する](#)

[トップページへ戻る](#)

[UCN会](#)